



二見中だより 第10

学校再開、1ヶ月が過ぎました。

6月1日に学校が再開されて、約1ヶ月が過ぎました。皆さん体調はどうですか？もうすっかり体も学校モードになりましたか？それとも少し疲れてはいませんか？とにかく休校が異常な事態、学校再開が普通です。異常に慣れてしまっただけはいけません、身も心も平時に戻し、学校生活を頑張っていきましょう。

さて、先週金曜日でクラブもテスト前休みに入りました。せっかくだから羽をのばして・・・、浮いた時間を少し遊んでから勉強を・・・。気持ちもわからないでもありませんが、そうなれば時間が生み出された意味がありません。体の疲れをなくし、勉強時間を生み出すのが「テスト前部活停止」(大会前は短時間練習するときはありますが)なのですから、ここは一心不乱に学習に励んでほしいと思います。いよいよ明日から、しっかり頑張りましょう！

コロナ対策、油断なきよう！

1ヶ月が過ぎ、世間ではプロ野球も開幕されたり、ディズニーランドが開園したりしていますが、コロナ対策に対する意識が緩んではいけません。手洗いをしなくなったり、人は慣れると大雑把になるものですが、決して油断せず、今後もしっかりと対策を継続してください。

放送による生徒総会が行われました



遅くなりましたが、今年度生徒会方針を決める生徒総会が、放送によって行われました。コロナウイルス対策で全校生が一堂に会することができないための処置ですが、初めての経験にも関わらず、生徒会総務の人たちは迅速、確実に対応していて

感心しました。これからも未経験のことにいろいろ直面するでしょうが、知恵を出し合って乗り切っていきましょう。取り組みご苦労様でした！

突然ですが、「囲碁・将棋」・・・これがなかなか

将棋の藤井聡太七段が将棋八大タイトル(名人・竜王・棋聖・棋王・叡王・王座・王将・王位)のうち、「棋聖」「王位」への挑戦権を獲得しました。このことで、タイトル挑戦者最年少記録を更新し、改めて存在感を示しました。現在タイトル戦が行われていますが、棋聖戦一局では渡辺棋聖の16手連続「王手」をしのいでの勝利。本人は「何とかしのげると思っていました」というのですから驚きです。

将棋と言えばこんなエピソードがあります。昔、内藤國雄九段が一般人13人と一斉対局(13人を1手ずつローテーションで移動しながら打つ。内藤は攻撃用の大駒、飛車、角落ちのハンデ)をしたことがあるのですが、1人の人がプロと対局できたことに感激し、「記念に棋譜(初手～投了までのスコア)が欲しい」と言い出し、内藤は快く応じました。すると全員が「私も！」となったのですが、内藤は全ての人に棋譜を書いて渡してあげたそうです。すなわち13人、相手、自分と全ての駒の動きを記憶していたことになります。

また、将棋盤を全く見ずに違う仕事をしながら、言葉だけで駒を助手に動かしてもらって将棋を指した棋士や、41手詰みの詰将棋を24秒で解く棋士(これも藤井七段)など、人間業ではありません。

将棋と並ぶ競技に「囲碁」があります。現在井山裕太(将棋の羽生善治と国民栄誉賞受賞)が最強と言われていますが、世界で最も単純なルールで最も奥深い競技と言われています。私たちが日常使う「駄目」「一目置く」「白黒つける」「布石」「捨石」「目論見(もくろみ)」「八百長」「筋がいい・悪い」「先手を取る」なども全て囲碁から出た言葉です。そして大阪の一部の学校では総合の時間に囲碁を取り入れています。

また将棋・囲碁には次のような特長があります。

- ①「運」が存在しない。全て実力の世界。
- ②「審判のジャッジ」が介入しない。審判によって勝敗が左右されることはありません。
- ③敗者の「負けました」の言葉で勝負が終わる。勝負師にとって屈辱的な言葉です。それでもその言葉を言わなくてはならない。辛いことだけではない。
- ④対局後、「はい、おしまい」ではなく、「感想戦」がある。「この一手で流れが変わりましたよ」「もし私がこうしていればどうしましたか？」など対局を振り返る。勝っておごらず、負けて腐らず。共に次への精進を目指し合います。これも互いに何手も巻き戻し、人間業ではありません。

ゲームに押されていますが、共に機会があれば触れてみてほしい競技だと思います。



梅雨本番。豪雨に注意！

梅雨が本格化し各地で降水量が多くなっていて、九州地方など被害が深刻なところもあります。明石市は瀬戸内気候区に属し、降水量が少なく、被害の出にくい地域とはいえ、十分な対策、注意が必要です。また体を濡らしたり、蒸し暑さもあり、体調を崩しやすい時期でもあります。体調管理をしっかりして、まずはテストに備えましょう。

